

平成 17 年度第 3 回矢作ダム堰堤改良技術検討委員会 議事概要

日時：平成 18 年 3 月 24 日（金）

9 時 35 分～12 時 15 分

場所：ホテルキャッスルプラザ(名古屋)

4 階 山吹の間

1. 第 2 回矢作ダム堰堤改良技術検討委員会の指摘事項と対応について

- ・堆砂量は、計画当初からいくと 100 万 m<sup>3</sup> 堆積している。これは測量図で整理したものである。 (委員会資料—1 p 1, p 4, 資料—2 p 1)
- ・年平均堆砂量の妥当性の評価については、今までの堆砂量から考えて、緊急堆砂対策としては 30 万 m<sup>3</sup>/年として計画する。 (委員会資料—1 p 1, p 4)

2. 堆砂対策検討について

2.1 緊急対策について

- ・毎年 30 万 m<sup>3</sup> の土砂が流入し、18 万 m<sup>3</sup> の土砂を除去し、12 万 m<sup>3</sup> の土砂堆積は許容するとの考えだが、12 万 m<sup>3</sup> が有効容量内に堆積することは容認できるのか。別途対策を検討していくとのシナリオは必要ないのか。 (委員会資料—3 p 6)
- ・現在は、堆砂容量内に入っていく量を考えており、有効容量内を侵さないという形で陸上掘削しようとする、水平にカットした堆積場をつくることになる。それをなるべく取りながら長期対策の方にバトンタッチするという考えである。
- ・将来的に貯砂ダムの機能回復まで視野に入っているのか。例えば、貯砂ダムを少し嵩上げすると、もう少し上流で止まるが、そのような選択肢は考えていないのか。 (委員会資料—3 p 6)
- ・事前放流をいつから正式にスタートさせるのかにかかっている。来年から事前放流を実施するというのであれば、287m まで確保しないといけないが、5 年ぐらいかかるといふことであれば、5 年たった段階で 287m までの容量が毎年確保されれば、事前放流としての位置づけと整合することになる。目標と、時間的な進行と、どの目標のためにどういふ施策をとるかを整理するべきである。 (委員会資料—3 p 4, p 6)
- ・堆砂対策のシミュレーションは、昭和 60 年の流況を 10 年間繰り返しているが、計画を立案する際は、平均的な流況で評価するのではなく、10 年間の間にある程度の出水を入れた検討を実施する必要がある。 (委員会資料—3 p 4, p 5)
- ・平成 16 年度河床でシミュレーションを実施しているが、現在の河床形状は異なっていると考えられるため、最新の河床形状を考慮しておく必要がある。
- ・緊急対策の土砂運搬費や土捨て場も実際にあるかどうかという問題もあるため、一刻も早く恒久対策のバイパスを早くつくるべきである。 (委員会資料—3 p 7)

## 2.2 長期対策について

(委員会資料—3 p 8)

- ・掘削したものを一部川に戻すということも視野に入れる必要がある。そのときに、下流にダムがほかにもあるので、どれぐらいの量だったら大丈夫かという検討をする必要がある。それが次のバイパストネルの検討にもつながる。
- ・バイパストネルの吐口は矢作第2ダムの下流となっているが、矢作第2ダム上流に吐口を設置した場合、矢作第2ダムに排砂ゲートなど土砂を通過させるための対策が必要となり、その費用を加味した検討を実施しておく必要がある。

## 3. 事前放流設備基本計画検討について

(委員会資料—5 IV 事前放流瀬設備基本計画検討編 説明資料)

- ・台風が来たときに、50mm になったら放流する。この検討は洪水の大きなときのものを使っただけであって、ここへ来た台風を全部やってみる必要がある。
- ・まずは、200m<sup>3</sup>/s が事前放流の能力としてどうかということを決めないといけない。
- ・シミュレーションが神様運転になっている。実際の運用を加味し、水位の回復率を上げるためのルールを検討を行う必要がある。
- ・200m<sup>3</sup>/s の事前放流設備とコンジットを併用すれば、水質の問題もかなり緩和されるのではないか。コンジットだけ使うと、水質面で水温の低下だとか濁水の長期化が起こる。しかし、事前放流設備とコンジットを併用すれば、それが緩和される。
- ・発電で約95m<sup>3</sup>/s まで流せるならコンジットを併用すれば十分ではないかという意見もあるはず。コストを掛けて事前放流設備を増設するのかという議論もある。その点を整理してほしい。
- ・全体として一つの洪水のイベントがあるときに事前放流をやるのが、環境にどんな影響があるのかを押さえておく必要がある。
- ・いろいろ議論した中で事前放流の施設として200m<sup>3</sup>/s レベルのものが考えられる。しかし、若干の温度低下の効果があつた。それが事業として適切かどうかという判断はまた別にして、委員会の結論としては、200m<sup>3</sup>/s の事前放流でやっていくということが一つ結論となる。

## まとめ

- ・次回は、矢作ダムの管理面や機能面の向上を重視し、河川計画の中でどんな位置づけを持っていくのかという点も加味して委員会を進めていきたい。

—以上—